

児童生徒との個人面談で心がけること ～悩みや苦しみを抱える児童生徒の理解と支援のために～

児童生徒が教師に対して心を開き、悩みや苦しみがあった場合にそれらを打ち明けるためには、教師自身が「教えよう」とする前に、児童生徒たちのことを「分かって」とすることが大切です。

児童生徒の身になって、時には手助けをした上で、必要に応じて「私はこう思うが、君はどうですか」などと、問題解決に向けての話を進めていきましょう。

【面接相談の進め方】

第1段階 相手の話を傾聴し、信頼関係を作る

児童生徒の伝えたいことを真剣に聴くことから児童生徒と教師の人間関係の確立がスタートします。「聞き上手」ではなく「聴き上手」になりましょう。相槌を打つ以外は、しゃべらず、意見を求められたら端的に話すなど、話し手である児童生徒のペースに合わせるようにしましょう。

教師が気持ちにゆとりを持ち、児童生徒が話しやすい状況を作りましょう。児童生徒が日常生活で興味関心を持っていることや好きなことなどに焦点を当て、和やかな雰囲気の中で、相談活動へと徐々に進めることにより、児童生徒にとって話しやすい場面を作ることにも有効です。

次のような点に注意し傾聴しましょう。

- ① 相手の目線を見ながら「はい」「ええー」「そうだね」「なるほど」など、タミング良く相槌を打ちながら聴く。
- ② 自らは聞かれたことしか話さない。自分の考えや価値観などを押しつけない。
- ③ 相手の話に興味を持ちながら聴く。
- ④ 相手の行動を認めつつ、児童生徒の行動や感情を支持すること。

想いをうまく言葉にできない児童生徒も多いようです。想いを言葉にできるのを待つ姿勢も必要です。

児童生徒は、ことばの内容や意味を聞いて欲しいのではなく、そのことばやしぐさの裏に隠されている感情を聴いて欲しいのです。教師が「聞き取ってあげる」だけで児童生徒は自己肯定への気づきを体験するのです。

傾聴とは、児童生徒のあるがままを受け入れることであり、決して児童生徒に迎合することではありません。

第1段階が最も大切です。
先生方の取組方次第です。

第2段階 相手の話を聴きながら問題の核心へ

児童生徒の話した語尾を軽く繰り返したり、感情のポイントを繰り返し児童生徒に伝えることにより、教師の理解を確認するとともに、児童生徒自身の自己理解も深めてゆきます。

児童生徒についての情報が必要な時には、本人が「はい」「いいえ」で答えられる質問とともに、次のような問いかけをしてみましょう。

- ① そのことについて、もう少し話してみませんか。
- ② その時、君の気持ちはどのようなものでしたか。
- ③ 今、話していて、どんな気持ちですか。
- ④ あなたはどうなりたいの。どうなれたらよいと思いますか。

児童生徒自身が自己理解を深め、自分の目標などを自覚できるように導きましょう。

第3段階（必要な場合には）児童生徒の行動を促す働きかけを

児童生徒に必要な行動を促す働きかけとしては、行動を促す「助言」や、相手のとるべき行動をそれとなく伝える「示唆」などがあげられます。

その際大切なのは、本人が自己決定することです。そして児童生徒の主体的な選択や正しい自己決定を促すために、こちらから情報を提供することも大事です。

助言 「・・・を試してみたら。」「・・・はどう。」「・・・かもしれないよ。」

示唆 「私だったら・・・するけど。」「その場合だったら・・・と考えられるかな。」

場合によっては、児童生徒がとるべき行動や言うべきことについて指示することも必要です。その際には、次のようにできるだけ具体的に指示しましょう。また、指示されたことを児童生徒が理解できたか必ず確認するようにしましょう。

- ① 「・・・しなさい。」
- ② 「・・・と言いなさい。」
- ③ 「・・・について考えなさい。」

以上のような点に心がけ、児童生徒の学校に対する素直な思いや、学校での心の安らぐ場所、友だちとの関係、家庭での過ごし方や家族との関係、そして児童生徒自身の自分に対する肯定感などについて注意しながら、子どもたちの話を傾聴しましょう。